HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	「明治七年　府縣物産表」の分析
Author(s)	山口, 和雄
Citation	經濟學研究, 1, 23-58
Issue Date	1951
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/30974
Type	bulletin (article)
File Information	1_P23-58.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

「明治七年府縣物産表」の分析

山口和雄

北海道大學經濟學會　經濟學研究 1

（一）

勸業寮編「明治七年府縣物産表」の分析をなすに當つて、まず、同表編纂の由來と、その重要性とについて、若干の考察を試みる。

明治三年九月、當時勸業事務をも所管した民部省は、「土地物産之多寡ヲ檢覈致候ハ、政典ノ急務ニシテ、國力ノ厚薄貧富ヲ詳明スル處」として、各府縣に命じてその管内の物産を取調べ、洩れなく記載することを命じた。次いで五年三月、その取調方法について若干の改正をなし、「年々産出ノ總計取調翌正月限可差出事」とした。（明治前期勸農事蹟輯錄上卷三四一―四二頁）このように、維新政府は明治三年以來全國的な物産調査に着手したが、しかしこの間、それが實際にどの程度進行したかについては必ずしも明らかでない。

明治六年末内務省の創設を見、翌七年一月には同省に勸業寮がおかれた。それと共に、物産取調のことも勸業寮の所管に移され、同寮の手によつて初めて明治六年度物産概表が編成され、次いで七年度、八年度の概表も作成された（内務省第一回年表、維新産業建設史資料第二卷三三〇―三一頁）。これらの概表は全國の物産を

米・陸稻・糯・麥類・雜穀類・穀質並澱粉類・園蔬類・種子類・果實類・菌草類・海藻類・藥種類・製藥類・釀造物類・油類・蠟類・牛類・馬類・禽獸類・蟲類・魚類・甲貝類・製茶類・飲料類・食物類・煙草類・金銀銅鐵類・金屬細工類・金屬箔類・玉石礦土類・諸器械類・船舶類・蠶卵紙類・繭類・生絲類・眞綿類・綿類・麻類・木綿糸類・縫織物類・縫裁物類・染物類・諸小間物類・化粧具類・染料類・塗具類・繪具類・膠漆類・文房具類・圖書製本類・漆器類・陶器類・氈席類・戸障子類・指物類・木地挽物類・藤竹葭器類・桶樽類・曲物類・竹類・木材類・植物類・皮葉類・紙類・皮革類・羽毛類・角爪類・網類・繩類・薪類・炭類・玻璃類・肥料類・飼料類・履物類・兵器類・雜貨玩物類

にわかち、夫々の産額を記したものであるが、表作成の基礎となつたのは言うまでもなく各府縣における詳細な物産表であつた。その府縣物産表のうち、明治七年度の分が一括して製本され、「明治七年　府縣物産表」となつたのである。六年度及び八年度の分が刊行されたかどうかは明らかでない。このようにして漸くわが國最初の詳細な全國物産表が編成されたのであるが、しかし、その編成も、明治十年一月勸業寮の廢止、勸農局の設置と共に繁雜の故を以て中止となつた。そして、九年以降、農産物のみを對象とした「全國農産表」が編成されることとなつたのである。（明治前期勸農事蹟輯錄上卷三四二―四三頁）

「明治七年　府縣物産表」は極細字を以て印刷された四六判六段組八三〇頁に及ぶ部厚な統計書であつて、北海道・沖繩を除く三府六十縣（計）について、農・工・林・水・鑛・畜のあらゆる生産物に亘り、その生産高と價額とを記したものである。統計知識の十分でなかつた頃のことであるから、數量單位は必ずしも一定せず、又統計數字そのものにも多少の誤りがあるようであるが、達觀的な考察をするには差支えない。從つて、この書を分析することによつて、明治初年における物産の狀態、殊に、㈠農工原始三生産間の比重㈡各生産における重要生産物㈢各生産物の重要産地㈣農村商品化の地域性等を數字の上から明らかにすることができる。更に又、この書は明治七年の調査であるので、分析の結果を以て或程度幕末の狀態を推定することが可能であるし、又その後の狀態の出發點となすこともできる。

以上簡單に指摘したところによつても明らかのように、本書は明治初期經濟の研究にとつて貴重な基礎資料である。それにも拘らず、今日までこの書を分析したものは殆んどなかつた。その理由は、一つには、本書が極めて入手困難な稀覯本に屬するからであろうが、今一つには、分析に相當の勞力が必要であるからであろう。本書には、各府縣及び全國の蒐計が一應記載されて居るが（概表がこれに當る）その蒐計は余りにも類型的で十分の役にたたない。從つて、當時の狀態を明らかにするがためには、個々の生産物について各府縣に亘り蒐計をしなおすと共に、場合によつては、各府縣毎に特定數の生産物價額の蒐計を求めなくてはならない。

幸にも、北大圖書館は札幌農學校所藏印のある此書を今日まで保管していたので、その分析を志し、今日に至つて漸く一應それを果すことになつた次第である。

（註）三府六十縣は次の如くである。

東京府（武藏國の內）　神奈川縣（武藏國の內、相模國）　埼玉縣（武藏國の內）
熊谷縣（武藏國の內、上野國の內）　栃木縣（上野國の內、下野國）　千葉縣（安房國、上總國、下總國の內）
新治縣（下總國の內、常陸國の內）　茨城縣（常陸國の內）　宮城縣（磐城國の內、陸前國の內）
福島縣（磐城國の內、岩代國の內）　若松縣（岩代國の內、越後國の內）　磐前縣（磐城國の內）
水澤縣（陸前國の內、陸中國の內）　岩手縣（陸中國の內）　青森縣（陸奥國）
山形縣（羽前國の內）　置賜縣（羽前國の內）　酒田縣（羽前國の內、羽後國の內）
秋田縣（羽後國の內、陸中國の內）　足柄縣（相模國の內、伊豆國）　靜岡縣（駿河國）
濱松縣（遠江國）　愛知縣（尾張國、三河國）　三重縣（伊勢國の內、伊賀國）
度會縣（伊勢國の內、志摩國、紀伊國の內）　山梨縣（甲斐國）　筑摩縣（信濃國の內、飛彈國）
長野縣（信濃國の內）　岐阜縣（美濃國）　新潟縣（越後國の內）
相川縣（佐渡國）　新川縣（越中國）　石川縣（加賀國、能登國）
敦賀縣（若狹國、越前國）　滋賀縣（近江國）　堺縣（河內國、和泉國）
大阪府（攝津國の內）　兵庫縣（攝津國の內）　奈良縣（大和國）
京都府（山城國、丹波國の內）　飾磨縣（播磨國）　和歌山縣（紀伊國の內）
岡山縣（備前國）　小田縣（備中國、備後國の內）　廣島縣（安芸國、備後國の內）
山口縣（周防國、長門國）　豐岡縣（但馬國、丹後國、丹波國の內）　鳥取縣（因幡國、伯耆國、隱岐國）
島根縣（出雲國）　濱田縣（石見國）　北條縣（美作國）
名東縣（阿波國、讃岐國、淡路國）　愛媛縣（伊豫國の內）　高知縣（土佐國、伊豫國の內）
福岡縣（筑前國）　三潴縣（筑後國）　小倉縣（豐前國）
大分縣（豐後國）　佐賀縣（肥前國の內）　長崎縣（肥前國の內、壹岐、對馬）
石川縣（肥後國）　宮崎縣（日向國の內）　鹿兒島縣（大隅國、薩摩國、日向國の內）

（二）

まず全般的な考察をする。「明治七年　府縣物産表」（以下單に「物産表」と呼ぶ）に掲載された各生産物を整理して農産物・工産物・原始生産物の三項に統一し、夫々の生産額を算出してみると第一表の如くである。

全國（1表）

農産物價額	227,286,701圓	（61%0）
工産物價額	111,891,559	（30%0）
原始生産物價額	33,128,714	（9%0）
計	372,306,974	（100%0）

〔備考〕合計額は「物産表」のものよりも多い。これは私の覓計しなおした結果である。

東京府（2表）

農産物價額	1,865,326圓	（44%2）
工産物價額	2,146,187	（50%9）
原始生産物價額	207,937	（4%9）
計	4,219,450	（100%0）

大阪府（3表）

農産物價額	2,946,932圓	（30%8）
工産物價額	6,090,296	（63%7）
原始生産物價額	527,541	（5%5）
計	9,564,769	（100%0）

京都府（4表）

農産物價額	4,714,095圓	（29%1）
工産物價額	10,096,330	（62%4）
原始生産物價額	1,376,051	（8%5）
計	16,186,476	（100%0）

岩手縣（5表）

農産物價額	1,762,476圓	（72%0）
工産物價額	416,829	（17%0）
原始生産物價額	268,463	（11%0）
計	2,447,768	（100%0）

大分縣（6表）

農産物價額	3,035,285圓	（75%1）
工産物價額	741,511	（18%2）
原始生産物價額	261,636	（6%5）
計	4,038,432	（100%0）

言うまでもなく、當時は未だ農・工・原始三生産間における分化は今日ほど進展していないので、右の如き分類をするにはかなりの無理があるが、それにしても一應のことは右によつて明らかであり、農業生産の支配性を改めて數字の上から知ることができる。だが、これはもちろん全國的考察で、府縣により三生産間の比率はかなりの差異があつたことも注意されなくてはならない。各府縣に亘つてその比率を示すことは避けるが、最も進展した地域として東京・大阪・京都の三府をみると二、三、四表の如くである。

このように、三府は工業生産の比重が極めて高いが、一般には前記のように農業生産が支配的で、殊に東北の岩手縣九州の大分縣の如きは五、六表にみる如く農業生産の地位が壓倒的であつた。

かくの如く、地域差が相當著しく、それが當時の特徴の一をなして居るが、この點については本稿の最後において更に別の觀點から考察することにしよう。

(三)

農業生産物の分析に移る。明治七年における各種農産物の生産額を整理してみると上掲第七表の如くである。

米 米の産出高約二千六百萬石、一億四千二百萬圓、總生産物價額の三八%、農産物價額の六三%を占める。以てその壓倒的地位を知ることができよう。明治七年における地租額米千七十四萬石余であるから（明治財政史第五卷三七七頁）、差引約千五百三十六萬石許りが農民の自家消費米及び販賣米であつたわけである。當時農民が直接どの程度の米を販賣していたかは最も知りたいところであるが、今のところそれを明らかにすることはできない。

米は、言うまでもなく、各府縣とも夫々相當量宛これを産出し、地域差は比較的すくないが、新潟縣を筆頭に、滋賀・秋田・新川・千葉・愛知・名東・山口・飾磨・福岡・石川・敦賀・熊谷・新治・廣島・白川・筑摩等の諸縣が第一級の生産地で、この十七縣で全生産高の四割七分位を産出して居る（八表）。

麥 麥は農産物のみならず、全生産物中にあつても米に次ぐ重要生産物で、その産額九百八十五萬石、二千五百萬圓、總生産物價格の六%強、農産物價額の一一%

〔農産物〕（7表）

米	25,914,013石	142,799,024圓	62%8
麥	9,858,331	25,073,475	11%0
大豆	1,819,138	7,404,545	3%3
其他雜穀類		8,702,838	3%8
芋類及蔬菜類		11,658,046	5%1
果實種子類		3,201,056	1%0
特殊農産物		27,915,167	12%3
其他		1,532,556	0%7
計		227,286,701	100%0

〔米〕（8表）

新潟縣	1,553,181石	6,196,000圓
滋賀〃	944,858	5,364,237
秋田〃	937,533	3,165,105
新川〃	857,131	3,789,473
千葉〃	794,621	4,854,220
愛知〃	790,747	5,300,914
名東〃	764,601	4,920,867
山口〃	685,674	4,671,599
飾磨〃	596,579	3,822,484
石川〃	589,166	2,923,173
福岡〃	580,660	3,600,363
敦賀〃	577,333	3,011,032
廣島〃	548,011	2,977,752
熊谷〃	546,908	3,871,255
新治〃	543,605	3,271,053
白川〃	520,460	3,084,064
筑摩〃	505,778	2,342,822
計	12,336,896	67,166,413
	（全生産高に對する比率 47%6）	（全生産額に對する比率 47%1）

〔麥〕（9表）

大麥及裸麥	8,124,891石	19,902,387圓
小麥	1,733,440	5,171,088
計	9,858,331	25,073,475

〔麥〕（10表）

熊谷縣	1,078,479石	2,635,592圓
名東〃	544,064	1,723,506
愛知〃	533,350	1,257,695
栃木〃	460,106	949,310
千葉〃	414,858	953,597
埼玉〃	364,851	643,263
神奈川〃	290,407	627,808
岐阜〃	284,742	610,814
飾磨〃	246,418	654,488
山口〃	226,061	966,516
廣島〃	225,004	636,860
小田〃	222,552	953,182
愛媛〃	217,701	710,968
計	5,108,593	13,323,599
	（全生産高に對する比率52%）	（全生産額に對する比率53%）

〔大豆〕（11表）

熊谷縣	164,124石	649,580圓
新潟〃	116,568	406,682
千葉〃	106,917	442,360
埼玉〃	99,006	334,402
栃木〃	86,229	405,868
新治〃	62,771	252,503
計	735,615	2,541,800
	（全生産高に對する比率41%）	（全生産額に對する比率34%）

を占める。大麥、裸麥が主で、小麥の比重は未だ比較的低かつた(九表)

麥も米と同樣全國的に産出され、地域差は割合すくないが、二十萬石以上の生産地は熊谷・名東・愛知・千葉・栃木・埼玉・神奈川・岐阜・飾磨・山口・廣島・小田・愛媛の諸縣で、この十三縣で全體の半分以上を産出して居る（十表）。

大豆　大豆の産額百八十二萬石、七百四十萬圓。麥に次ぐ重要農作物で、全國いたるところで産出されて居るが、關東地方及び新潟縣が特に産額多く、熊谷・新潟・千葉・埼玉・栃木・新治の六縣で全體の約四割を占めて居る(十一表)。

雜穀類　その他の雜穀類の內譯を示すと第十二表の如くである。

粟及び小豆の生産は殆んど全國的

〔雜穀類〕（12表）

粟	984,594石	2,342,882圓
稗	935,262	965,143
黍	180,568	565,671
蜀黍	139,660	349,605
蕎麥	458,814	1,158,907
小豆	337,252	1,502,777
其他		1,817,553
計		8,702,838

〔稗〕（13表）

岩手縣	99,528石	87,236圓
筑摩〃	96,944	83,744
青森〃	86,964	46,844
熊谷〃	77,935	82,690
栃木〃	69,795	96,818
長野〃	59,083	55,782
神奈川〃	42,769	48,278
計	533,018	501,432
	(全生産高に對する比率57%)	(全生産額に對する比率52%)

〔黍〕（14表）

愛媛縣	31,349石	126,133圓
山口〃	31,744	158,724
計	63,093	284,857
	(總生産高に對する比率35%)	(總生産額に對する比率50%)

〔蜀黍〕（15表）

岩手縣	37,000石	110,473圓
愛媛〃	27,296	67,838
計	64,296	178,311
	(總生産高に對する比率46%)	(總生産額に對する比率51%)

〔蕎麥〕（16表）

熊谷縣	27,910石	94,052圓
長野〃	27,763	74,660
筑摩〃	23,426	43,421
青森〃	22,332	33,791
栃木〃	21,612	63,474
新潟〃	20,481	57,597
計	143,524	316,995
	(總生産高に對する比率31%)	(總生産額に對する比率27%)

で、各地方で少しづゝ産出されて居る。

稗も未だ大阪・兵庫・堺・山口・佐賀等の諸縣を除くと他地方ではいづれもこれを生産して居るが、岩手・筑摩・青森・熊谷・栃木・長野・神奈川の諸縣が特に産額多く、この七縣で全生産高の半分以上を占めて居る（十三表）。

黍の生産も全國的であるが、愛知・山口兩縣の産額特に多く、この二縣で全生産高の三五%生産額の五〇%を産出して居る（十四表）。

蜀黍の生産も殆んど全國に及んで居るが、岩手・愛媛兩縣の産出特に多く、やはりこの二縣で全體の半分近くを生産して居る（十五表）。

蕎麥の生産も全國的であるが、新潟・熊谷・栃木・筑摩・長野・青森の六縣で全體の三割を産出して居る（十六表）。

芋類及蔬菜類　芋類及び蔬菜類の比重は未だ極めて低かつた。その内譯を算出すると十七表の如くである。甘藷を除く他品は何れも數量單位が各府縣區々であるので、全體としての生産

〔芋類及蔬菜類〕（17表）

甘藷	2,755,685圓
里芋	1,883,876
馬鈴薯	104,621
大根	2,721,907
茄子	863,033
蠶豆	389,455
牛蒡	254,532
蕪菁	246,666
菜類	224,700
胡蘿蔔	199,922
豌豆	191,251
胡瓜	184,737
南瓜	129,816
西瓜	115,708
葱	113,227
其他	1,278,961
計	11,658,096

〔甘藷〕（18表）

長崎	縣	32,031,105貫	628,405圓
白川	〃	15,326,219	385,431
佐賀	〃	13,049,344	266,056
愛媛	〃	11,171,605	158,578
宮崎	〃	9,094,549	130,747
名東	〃	7,369,695	134,421
大分	〃	6,775,505	75,277
廣島	〃	5,708,413	115,805
計		100,526,435	1,894,720
		（總生産高に對する百分比　74%）	（總生産額に對する百分比　69%）

産出して居るが、長崎・白川・佐賀・愛媛・宮崎・名東・大分・廣島・鹿兒島等の西南地方が中心地で、十八表の如くこの八縣（鹿兒島縣は生産高不詳）で全生産高の七割内外を生産して居る。

馬鈴薯の産額は未だ極めて微々たるものであつた。

蔬菜類はすでに各種のものが栽培されて居るが、大根類次いで茄子が最も多い。大根は各府縣とも概ね蔬菜類の中では最も産額多いものであるが、中でも奈良・新潟・熊谷・愛知・石川・愛媛・白川等の諸縣の産額特に多く、この七縣で全生産額の四割近くを占めて居る。これらの地方ではすでに大根を商品として生産する量も相當多かつたものと考えられる。

果實類　果實類の内譯をみると十九表の如くである。

果實類の比重も表記のように未だ極めて低く、その商品生産化の程度も限られていた。商品生産の割合進んでいたのは恐らく紀州の蜜柑位であつたろう。

特殊農産物　特殊農産物と農村工業品との區別は嚴密には困難であるが、こゝでは綿類・菜種・繭・藍・煙草・麻類・飼料を特殊農産物とすることにした。その産額を算出すると二十表の如くである。

數量をあげ得ず、生産額のみを示した（十七表）。

芋類では在來の里芋の比重が未だ相當高く、各地で生産されて居るが、熊谷・栃木・愛知・岐阜・名東・愛媛・宮崎の諸縣が産額特に多く、この七縣で全生産額の四四%を占めて居る。甘藷の生産高は一億三千五百萬貫に及び、東北地方や新潟縣を除くとすでに全國で多少づゝ

〔果實類〕（19表）

柿	309,299圓
蜜柑	154,509
梨	146,088
梅	95,851
栗	75,316
桃	71,512
枇杷	31,978
葡萄	10,224
林檎	8,226
其他	116,165
計	1,019,168

〔特殊農產物〕（20表）

綿類	7,434,509圓
菜種	6,036,757
繭	4,917,261
藍	3,422,059
煙草	2,939,681
麻類	1,328,825
飼料	1,816,071
計	27,915,167

綿類（實綿・繰綿その他）は江戸時代に引續いて重要な特殊農產物の一でその生產高一千百八十五萬貫（七千四百七萬斤）七百四十三萬圓に達する。東北地方を除くと、各府縣で多少とも生產して居るが、主要產地は愛知・京都・大阪・堺・名東の諸縣で、この四府縣で全體の約半分を生產していた（二一表）。

燈油の原料としての菜種も未だ重要な農產物で、その生產高九十二萬七千八百二十九石、六十萬三千圓余に達する。東北地方はその產額比較的僅少であるが、その他の諸縣では夫々相當量を產出し、殊に愛知・三潴・堺・三重・奈良・山口・新潟・岐阜・敦賀・石川・大阪・名東・度會・熊谷の諸縣はその產額多く、この十四府縣で全體の約半分を產出して居る（二二表）。

〔綿類〕（21表）

愛知縣	1,819,644貫	1,210,065圓
京都府	1,348,848	1,255,418
大阪府	1,058,296	575,002
堺縣	810,653	490,887
名東縣	541,487	442,470
計	5,578,923	3,973,842
	（總生產高の47%）	（總生產額の53%）

〔菜種〕（22表）

愛知縣	102,756石	404,511圓
堺〃	53,434	230,335
三潴〃	52,550	186,308
三重〃	37,136	156,761
奈良〃	34,945	143,214
山口〃	32,000	280,000
新潟〃	27,945	69,047
岐阜〃	25,005	74,116
敦賀〃	24,629	127,777
石川〃	24,580	94,931
大阪府	23,848	89,420
名東縣	21,914	101,350
度會〃	20,605	76,570
熊谷〃	13,347	102,192
計	504,694	2,136,582
	（總生產高に對する比率54%）	（總生產額に對する比率35%）

繭は數量單位が府縣によつて一定していないので、生產數量を示すことが困難であるが、その價額は表記のように四百九十一萬圓余に達していた。そのすべてが商品化されていたとは言えぬであろうが、しかし相

當部分がすでに商品として生産されていたのではなかろうか。主要産地は熊谷縣を筆頭に、山梨・長野・筑摩・福島・水澤の諸縣で、この六縣で全生産額の六割六分を占めて居る(二三表)。

次に藍。農業生産物としては葉藍のみの生産高を示すべきかも知れぬが、ここでは便宜上葉藍、藍玉の合計した數字を示した。生産數量はやはり各府縣の單位が一定していないので示すことかできぬが、生産額は表記のように三百四十二萬圓に及び、藍が江戸時代に引續いて重要な特殊農産物であつたことを示して居る。この時代になると、全國各府縣で多少づゞ生産されて居るが、なんと言つても阿波がその特産地で、同國をもつ名東一縣で全生産額の三五%を出して居る。其の他としては新潟・熊谷・磐前・愛知等の諸縣か比較的重要な産地であつた(二四表)。

煙草も農業生産物としては葉煙草のみをあげるべきであろうが、便宜上刻煙草等も包含して取扱うことにした。まずその内譯を算出してみると二五表の如くである。

〔繭〕(23表)

熊谷縣	164,159石	1,245,199圓
山梨〃	38,960〃	799,200
長野〃	266,628貫	415,878
筑摩〃	171,370〃	308,272
福島〃	16,519石	300,247
水澤〃	15,740〃	232,400
計		3,281,196 (總生産額に對する比率66%)

〔藍〕(24表)

名東縣	藍玉	61,107俵	687,070圓
	葉藍	730,399斤	516,529
	藍藻	83,140貫	4,860
		小計	1,208,459 (總生産額に對する比率35%)
新潟〃	葉藍	703,708貫	181,348圓
	藍粉	46,520〃	23,305
		小計	204,453
熊谷〃	藍玉	238,374貫	92,658圓
	葉藍	143,117〃	78,410
		小計	171,076
磐前〃	藍玉	85,170貫	138,402圓
愛知〃	葉藍	281,148貫	47,812圓
	藍玉	181,104〃	82,240
		小計	130,052
計			1,208,459 (全生産額に對する比率53%)

〔煙草〕(25表)

葉煙草	23,613,605斤	1,203,228圓
刻煙草	14,221,172斤	1,347,034
巻煙草	80,300本 320貫	5,379
計		2,555,641

各府縣とも多少づゝこれを生産して居るが、特に重要な生産地は小田・筑摩・奈良・名東・熊谷・栃木・新潟・磐前・白川・東京の諸府縣で、この十府縣で全體の四割位を占めていた(二六表)。

〔煙草〕(26表)

小田縣	葉煙草	1,595,756斤	51,064圓
	刻〃	1,165.019	111,842
筑摩〃	葉〃	2,051,963	45,867
	刻〃	.17,549	57,515
奈良〃	葉〃	1,169,865	42,935
	刻〃	620,539	12,125
名東〃	葉〃	1,033,937	6),041
	刻〃	645,259	56,257
熊谷〃	葉〃	1,297,783	122,300
	刻〃	320,418	61,399
栃木〃	葉〃	1,334,200	43,684
	刻〃	251,229	21,749
新潟〃	葉〃	755,196	49,205
	刻〃	815,352	56,633
磐前〃	葉〃	1,302,144	41,993
	刻〃	25,606	11,824
白川〃	葉〃	855,300	39,187
	刻〃	256,400	76,920
東京	刻〃	1,014,996	127,991
計	葉煙草	11,396,119斤 (全葉煙草生産高に對する比率48%)	500,676圓 (全葉煙草生産額に對する比率42%)
	刻煙草	5,232,417斤 (全刻煙草生産高に對する比率37%)	594,255圓 (全刻煙草生産額に對する比率44%)

麻　麻の中には便宜上麻苧の外麻糸をも包含せしめた。生産數量は單位が一定せぬので示すことはできぬが、生産額は表記のように百三十二萬圓余に及び、比較的重要な農産品であつた。最大の生産地は栃木縣であるが、その外新潟・熊谷・筑摩・若松・敦賀・廣島・白川・宮崎の諸縣が産額多く、此九縣で全生産額の約六割を産出して居る(二七表)。

（四）

次に工業生産を分析する。工業生産額は前記の如く總計一一一、八九一、五五九圓に達するが、その内譯を整理してみ

〔工業生産物〕（28表）

第1類

織物類	17,159,141圓
染物類	3,032,564
縫裁類	1,366,615
生糸類	6,164,752
眞綿類	220,168
木綿糸類	1,234,346
履物類	1,816,071
小計	30,993,657
	（全工業生産額に對する比率 27%7）

第2類

酒類	18,605,495圓
醬油	6,338,489
味噌	6,137,487
製茶	3,951,163
鹽	2,393,802
砂糖	1,379,861
其他食品類	8,084,202
其他飲料類	4,370
小計	46,944,869
	（全工業生産額に對する比率 41%9）

第3類

莚席類	1,432,370圓
戸障子類	480,767
小計	1,913,137
	（全工業生産額に對する比率1%7）

第4類

油類	5,442,523圓
蠟類	1,575,333
小計	7,017,856
	（全工業生産額に對する比率6%3）

〔麻類〕（27表）

栃木縣	麻	230,947貫	219,085圓
	麻糸	459	1,102
		小計	218,187
敦賀〃	麻	87,195貫	100,361
	麻糸	20,025	80,700
		小計	181,061
新潟〃	麻	85,623貫	79,412
	麻糸	17,124	16,952
		小計	96,367
廣島〃	麻糸	2,211貫	4,098
	扱苧	80,000	73,000
	麻布糸	391	59
	荒苧	15,083	613
		小計	77,770
熊谷〃	麻糸	117,233房	2,727
	麻	69,714貫	63,596
		小計	66,323
宮崎〃	麻	52,385貫	44,081
	麻糸	1,215	2,707
		小計	46,788
筑摩〃	麻苧	38,347貫	32,887
	麻糸	343	244
		小計	33,131
若松〃	金引苧	42,644貫	30,980圓
	麻糸	591	781
	麻縫糸	8	23
	麻小縫糸	1,412,780操	1,741
	麻網糸	2貫	5
		小計	33,530
白川〃	麻	149,070貫	30,200
	麻糸	69	69
		小計	30,269
計			783,423圓
			（全生産額に對する比率58%）

第5類

陶器類	2,092,030圓
漆器類	919,914
指物類	593,585
木地挽物類	77,175
曲物類	44,482
桶樽類	981,231
金屬細工類	1,537,267
篠竹製器類	753,311
雜貨玩物類	1,484,913
玻璃類	32,782
小計	8,521,690 (全工業生産額に對する比率7%7)

第6類

紙類	5,166,881圓
文房具類	392,406
圖書製本類	164,256
繪具類	14,443
小計	5,737,986 (全工業生産額に對する比率5%2)

第7類

諸器械類	3,060,854圓
肥料類	3,057,391
船舶類	136,753
網類	447,857
小計	6,702,855 (全工業生産額に對する比率5%9)

第8類

製藥類	366,903圓
藥種類	317,385
化粧具類	854,624
其他	2,520,597
小計	4,059,509 (全工業生産額に對する比率3%6)
合計	111,891,559圓

ると二十八表の如くである。

表記の如く、酒類を筆頭とする飲食品部門及び織物を筆頭とする服飾品部門の比重が極めて大きく、この兩部門で全體の七割强を占めて居る。これに反し生産用具類の比重は未だ極めて低く、全體の僅か五%以下にすぎない。以て當時の工業生産の性質の一端を知ることができよう。以下、これらの工業生産物の主要なものについて更に分析を進めたい。

第一類

織物 織物は當時酒類と共に最も重要な工業品であつて、全工業生産額の一五%五、全生産額の四%を占める。その内譯を算出してみると二十九表の如くである。

まず綿織物。これには白木綿・縞木綿及びかすり其の他の加工綿織物があるが、江戸時代に引續いて白木綿の産額が最も多かつた。しかし縞木綿の産額もすでに相當の程度に達していた。生活必需品たる綿織物は各府縣で生産されて居るが、たゞ地域差は相當甚しく、大阪府以下表記の十一府縣で全生産額の六割内外を占めて居る(三十表)。

次に絹織物。生活必需品でない絹織物にあつては地域差は更に著しい。西陣をもつ京都府と桐生をひかえる栃木縣と

〔織物〕（29表）

綿織物	20,128,657反	10,856,271圓	(63%3)
絹織物		4,581,057	(26%7)
絹綿交織物	981,951	1,379,076	(8%0)
麻布其他		342,737	(2%0)
計		17,159,141	(100%0)

〔綿織物〕（30表）

大阪府	1,806,655反	698,117圓
新川縣	1,646,640	609,958
愛知〃	1,506,614	751,422
愛媛〃	1,188,206	361,357
廣島〃	1,114,159	407,812
埼玉〃	1,072,663	631,777
奈良〃	922,488	690,744
熊谷〃	913,426	542,689
新潟〃	855,321	582,221
筑摩〃	821,163	423,312
栃木〃	706,782	552,648
計	12,554,117 (全生産高に對する比率62%)	6,249,057 (全生産額に對する比率58%)

〔絹織物〕（31表）

京都府	1,503,025圓
栃木縣	649,876
豊岡〃	446,003
熊谷〃	347,904
山梨〃	206,702
計	3,153,510 (全生産額に對する比率68%)

〔絹綿交織物〕（32表）

栃木縣	798,825反	1,061,112圓
京都府	127,325	269,210
計	926,150 (全生産高に對する比率94%)	1,330,322 (全生産額に對する比率96%)

が二大生産地であつた。絹織物はその種類が極めて多様、從つて數量單位も一定して居らぬので、生産額のみについてみると、この二府縣で全生産額の四七%を占めている。之に次ぐのは豊岡・熊谷・山梨の諸縣であつた(三一表)。

絹綿交織物は足利をもつ栃木縣の産額が壓倒的で、數量においても價額においても全體の約八割を占めていた。これに次ぐのは京都府であるが、栃木縣に比すればその産額著しく劣る(三二表)。

生糸　生糸の産額三十七萬七千貫余、六百十六萬圓余に達する。殆んど全國に亘つて生産されて居るが、熊谷・豊岡・筑摩・長野・福島・山梨の諸縣が主要生産地で、この六縣で全生産高の五割内外を産出して居る(三三表)。

綿糸　綿糸の生産高は八十五萬貫と百五十七萬筋余、その價額百二十三萬圓余に及ぶ。その生産はすでにかなり各地

〔生糸〕（33表）

熊谷縣	65,548貫	1,438,945圓
豊岡〃	29,895	290,107
筑摩〃	21,895	521,575
長野〃	18,027	367,982
福島〃	16,763	384,810
山梨〃	16,519	343,509
計	168,647（全生産高に對する比率45%）	3,346,928（全生産額に對する比率54%）

〔綿糸〕（34表）

大阪府	160,778貫 36,000筋	97,686圓
和歌山縣	107,382貫	103,062
愛知〃	72,284	150,500
埼玉〃	61,212	134,840
奈良〃	60,767	119,624
名東〃	33,873	98,385
計		705,097（全生産額に對する比率 57%1）

六%八、全生産額の五%を占める。その内繰は三十五表の如くで、すでに濁酒に對し清酒が壓倒的であつた。

酒は米麥と同樣各地で生産され、地域差は比較的すくないが、灘をもつ兵庫縣を筆頭に、愛知・新潟・栃木・京都・熊谷の諸地方が比較的産額多く、この六府縣で全體の三割近くを産出して居る(三五表)。

これ以外の諸縣でも多いところは七萬乃至八萬石、すくないところでも概ね一萬乃至二萬石を産出していた。

醬油 醬油の生産高九十四萬六千石、六百三十四萬圓。いづれの府縣でもこれを生産し、地域差は比較的すくないが主産地は野田をもつ千葉縣を筆頭に飾磨・新治・愛知・名東・宮崎の諸縣であつた(三六表)。

味噌 味噌の産額五千百十萬貫、六百十四萬圓。やはり各府縣で生産されて居るが、その中心は關東・中部・東北地方で、熊谷・新潟・愛知・新治・秋田・筑摩・千葉・長野の諸縣が主産地であつた(三七表)。

鹽 鹽の生産高三百八十五萬一千石、二百三十九萬三千圓余。その主要産地は瀬戸内海に面する飾磨・岡山・小田・方に普及して居るが、それでもなお栃木・磐前・水澤・岩手・置賜・酒田・秋田・相川・滋賀・鳥取・小田・山口・佐賀・鹿兒島の諸縣は綿糸の産額が記載されていない。これに反し、大阪・和歌山・愛知・埼玉・奈良・名東の諸縣は主要産地で、この六府縣で全生産額の半分を占めて居る(三四表)。

第二類

酒類 生産額からみると、酒類は米麥に次ぎ織物を超える重要生産物で、全工業生産額の一

〔酒類〕（35表）

清酒	3,193,598石	17,562,018圓
濁酒	164,691	699,705
其他	73,075	342,772
計	3,431,364	18,705,495
兵庫縣	255,500石	1,176,384圓
愛知〃	165,861	1,465,639
新潟〃	148,150	629,779
栃木〃	122,155	772,819
京都府	118,958	681,660
熊谷縣	112,865	681,255
計	923,489（全生産高に對する比率27%）	5,407,536（全生産額に對する比率29%）

〔醤油〕（36表）

千葉縣	78,865石	495,030圓
飾磨〃	59,377	288,793
新治〃	58,229	346,940
愛知〃	42,379	314,082
名東〃	39,767	284,047
宮崎〃	26,990	303,080
計	305,607（全生産高に對する百分比32%）	2,031,972（全生産額に對する百分比32%）

〔味噌〕（37表）

熊谷縣	6,562,830貫	718,525圓
新潟〃	6,477,604	628,195
愛知〃	3,946,131	308,776
新治〃	3,327,068	336,469
秋田〃	2,619,532	230,996
筑摩〃	1,434,255	128,279
千葉〃	1,390,402	214,550
長野〃	1,218,640	233,157
計	26,976,462（全生産高に對する比率52%）	2,798,947（全生産額に對する比率46%）

廣島・山口・名東・愛媛の諸縣と石川縣（能登）とで、この八縣で全生産高の九割を産出して居る（三八表）。

砂糖　「物産表」によると、砂糖の生産高は千八十七萬斤、百三十八萬圓となるが、これには鹿兒島・沖繩兩縣の分が含まれていない。明治二年における大島琉球等の黑糖産額は二千二百九十二萬斤とされるが（遠藤佐々喜「維新直後鹿兒島産物出入比較表に就て」社會經濟史學四卷十二號所收）、その後輸入糖の壓迫のため産額多少減少したとしても明治七年頃の我國全體の砂糖生産高は恐らく三千萬斤を下らなかつたものと思われる。

砂糖のうちでは黑糖が未だ優位を占めていた。その内譯をみると三十九表の如くである。

此表に單に砂糖とあるのは白黑いづれか不明のものであるが、その主要部分は恐らく黑糖ではなかつたかと思う。更に前記の如く鹿兒島沖繩の約二千萬斤は黑糖であるので、黑糖が全く優位にあつたわけである。

砂糖は靜岡・濱松以西の太平洋斜面の諸縣で生産され、關東・東北・裏日本では産出されなかつた。鹿兒島沖繩を除

〔塩〕（38表）

山口縣	1,104,600石	740,082圓
飾磨〃	746,393	394,076
岡山〃	483,914	151,608
名東〃	374,716	198,906
廣島〃	254,750	134,325
愛媛〃	252,737	142,931
小田〃	133,305	87,981
石川〃	110,060	128,022
計	3,460,475（全生産高に對する比率90%）	1,977,931（全生産額に對する比率83%）

〔砂糖〕（39表）

黒砂糖	4,252,854斤	
白砂糖	3,083,809	
赤砂糖	98,588	
砂糖	3,438,172	
計	10,873,423	
名東縣 白砂糖	1,056,850斤	276,609圓
名東縣 黒〃	1,075,106	438,569
名東縣 赤〃	98,588	5,304
小計	2,230,544	720,482
白川縣 砂糖	1,508,500	90,510
計	3,739,044（全生産高に對する比率34%）	810,992（全生産額に對する比率58%）

〔製茶〕（40表）

京都府	8,338,061斤	446,255圓
滋賀縣	1,581,110	758,933
静岡〃	1,080,187	309,690
計	10,999,358（全生産高に對する比率62%）	1,514,878（全生産額に對する比率39%）

くと讃岐をもつ名東縣が最大の生産地で、白川縣がこれに次ぎこの兩縣で全生産高（鹿兒島・沖繩を除く）の三割四分生産額の五割八分を占めていた。

製茶　茶の生産高は千七百六十萬斤、三百九十五萬圓に達する。各府縣で多少とも生産されて居るが、京都・滋賀・靜岡の産額特に多く、この三府縣で全生産高の六割、生産額の四割近くを生産して居る（四〇表）。

第三類

氈席類　まずその内繹を算出してみると四十一表の如くである。

莚は各府縣で生産されて居るが、主要生産地は大阪・新潟・熊谷・滋賀・敦賀の諸縣であつた。この五府縣で全生産高の三割、生産額の四割を出して居る。

畳表は小田縣を筆頭に石川・廣島・白川・濱松・滋賀・敦賀・大阪が主産地で、この八府縣で全生産高の七割、生産

〔蓆席類〕（41表）

莚	14,565,998枚	520,835圓
疊表	3,047,334〃	412,926
疊床	76,891疊	36,229
疊	98,047〃	95,436
席	1,229,437枚	109,108
座	884,348〃	46,354
其他		211,382
計		1,432,370

額の八割を産出して居る。

席及び座は藺製又は藁製のござの類と思われるが、前者は熊谷・三潴・白川の三縣が主産地で、全生産高六割五分位を占め、後者は石川縣のみで全體の五割以上を占めて居る。

第四類

油類　油類の内譯を算出してみると四十二表の如くであつて、燈火油としての菜種油が全産額の約七割を占め支配的であつた。

菜種油は各府縣で生産されて居るが、表記の諸縣が特に産額多く、この十府縣で全體の四割五分を占めて居る(四三表)。

〔油類〕（42表）

菜類油	272,877石	3,840,496圓
荏油	4,490石 170樽 299貫	184,836
胡麻油	5,521石 67樽 483貫	111,897
棉實油	8,461石 11貫	164,681
魚油	12,129石 145桶 40樽	102,598
蠟付油		452,386
其他		585,418
計		5,442,252

〔菜種油〕（43表）

山口縣	20,000石	400,000圓
熊谷〃	17,501	99,328
滋賀〃	12,616	190,692
大阪府	12,258	214,121
三潴縣	12,098	174,241
三重〃	11,764	178,752
愛知〃	9,782	162,158
堺〃	9,573	132,266
奈良〃	8,510	96,814
岐阜〃	8,492	141,054
計	122,630 (全生産高に對する比率45%)	1,789,426 (全生産額に對する比率46%)

蠟類　すでに動物性の蠟も多少は生産されて居るが、未だ大部分が櫨實を原料とする蠟及びその蠟燭であつた。從つてその主要産地も西南地方と加工地としての大阪とであつた(四四表)。

〔蠟類〕(44表)

大阪府	牛蠟	323,475斤	13,072圓
	晒蠟	1,220,975	134,961
	生蠟	117,677	9,956
	蠟燭	538,190	69,218
			227,207
長崎縣	木蠟	2,096,789	148,110
愛媛〃	木蠟	1,720,700	115,343
	晒蠟	36,650	3,271
	蠟燭	167,294	17,171
			135,785
敦賀〃	蠟燭	626,500	101,153
山口〃	櫨蠟	800,000	100,000
三潴〃	蜜蠟	4,955	3,334
	木蠟	948,600	78,026
	蠟燭	134,300	10,491
			91,901
大分〃	生蠟	556,675	51,548
	玉蠟	1,000	110
	蠟燭	158,585	20,818
			72,476
白川〃	生蠟	349,912	31,643
	蠟燭	121,800	18,774
			50,416
和歌山〃	櫨蠟	145,280	10,170
	蠟燭	207,500	33,620
			43,790
小倉〃	生蠟	366,663	41,904
	蠟燭	17,200	1,620
			43,524
計			1,089,832 (全生産高に對する比率69%)

第五類

陶器類　陶器類二百九萬圓の中には普通の陶器類と瓦及び煉瓦とが含まれるが、其内譯は四十五表の如くである。一般陶器類の主産地は岐阜・愛知・京都・佐賀の諸縣で、此四府縣で全生産額の約五割を占めて居る(四十六表)。瓦も各府縣で産出されて居るが、京都府以下次の十府縣で全生産額の約六割を占めて居る(四十七表)。煉瓦は大阪・東京・京都の三府が主産地で、殊に大阪はその産額多かつた。

漆器類　漆器類の生産額九十二萬圓弱、各府縣で多少づゝ生産されて居るが、石川・靜岡・若松・京都・大阪の五府縣が主産地で、全體の五割を占めて居る(四八表)。

〔陶器類〕（45表）

一般陶器類	746,017圓
瓦	615,125
煉瓦	730,888
計	2,092,030

〔一般陶器〕（46表）

峽阜縣	172,712圓
愛知〃	72,905
京都府	65,525
佐賀縣	52,882
計	364,024（全生産額に對する比率48%）

〔瓦〕（47表）

京都府	72,660圓
愛媛縣	43,351
山口〃	42,120
愛知〃	38,617
岐阜〃	36,838
敦賀〃	30,450
三重〃	29,388
名東〃	27,248
三潴〃	24,171
堺〃	20,140
計	364,983（全生産額に對する比率59%）

〔漆器類〕（48表）

石川縣	109,599圓
靜岡〃	104,536
若松〃	101,966
京都府	79,035
大阪〃	67,123
計	462,254（全生産額に對する比率50%）

石川縣では膠・椀・重箱等が、靜岡縣では箪笥が、若松縣では椀類が、京都府では箪笥・廣蓋・手文庫が、大阪府では箪笥・行燈・鏡台等が夫々主要産物であつた。

桶樽類　桶樽類も各府縣で生産されて居るが、酒の主産地たる兵庫・愛知・新潟の諸縣と大阪・東京の兩府とがその主要生産地で、この五府縣で全生産額の半分を占めて居る(四九表)。

金屬細工類　金屬細工類には釘・針・鋲及び各種金屬細工物が包含されて居る。數量單位が一定せぬので、夫々の生産數量を示すことはできぬが、生産額について内譯をみると五十表の如くである。

釘は敦賀縣を筆頭に靜岡・新潟・大阪・飾磨・石川・廣島の諸縣が主産地で、この七府縣で全生産額の七四%を出して居る。

針（縫針及釣針）は大分・豐岡の兩縣が主産地で、この二縣で全生産額の半分以上を占めて居る。

鋲は未だ數縣で生産されているにすぎないが、新潟縣が最大の生産地で、同縣のみで全生産額の六割を占めて居る。

其の他の金屬細工類は主に京都・大阪で生産されていた。

〔桶樽類〕（49表）

兵庫縣	209,847圓
愛知〃	112,388
大阪府	98,657
新潟縣	53,683
東京府	47,360
計	521,915（全生産額に對する比率53%）

〔金屬細工類〕（50表）

釘	888,521圓
針	49,508
鋲	157,357
其他金屬細工類	441,881
計	1,537,267

第六類

紙類　和紙の製造は當時重要な工業生産の一であつた。やはり數量單位が一定しないので生産數量を一括して示すことはできぬが、その生産額は二八表のように五百十六萬圓余に達していた。尤もこれには多少の紙細工類が含まれているが、大部分は紙の生産額であつた。

紙は山口縣が全生産額の二五%を占めて首位を占め、その外では高知・磐前・愛媛・濱田・岐阜の諸縣が主産地であつた(五十一表)。

なお東京・京都・大阪・新潟・靜岡・筑摩・長野・宮城・敦賀・石川・新川・廣島・名東・三潴・白川等の諸府縣の和紙生産も相當の程度であつた。

〔紙類〕(51表)

山口縣		1,385,890圓
高知	〃	465,830
磐前	〃	300,559
愛媛	〃	269,642
濱田	〃	235,910
岐阜	〃	203,323
計		2,861,154 (全生産額に對する比率55%)

第七類

諸器械類　「物産表」に諸器械類とあるものの中には鍬鎌の類から鍋釜まで種々の用具が含まれて居るが、これらを整理してみると五十二表の如くである。

農具類には鍬・鋤・鎌・稻扱・唐箕・篩・臼・熊手・犁・鋤簾・風扇車・押切等各種の農具が含まれるが、生産額の上からみて支配的であつたのは鎌・鍬及び鋤であつて、此三者で全農具生産額の九割近くを占めていた(五十三表)。

〔諸器械類〕(52表)

農具類	807,109圓
織物・製糸・醸造其他製造用具	100,926
鋸・鉋・斧・庖丁の類	351,989
車輛類	299,363
鍋釜類	572,057
其他	929,410
計	3,060,854

〔農具〕(53表)

鍬	319,290圓
鎌	318,043
鋤	82,356
計	719,689 (全農具生産額に對する比率89%)

〔農具〕(54表)

敦賀縣		63,831圓
山口	〃	55,050
新潟	〃	44,966
奈良	〃	35,823
大阪府		34,066
白川縣		32,625
宮崎	〃	29,071
愛知	〃	23,618
計		319,050 (全農具生産額に對する比率39%)

農具類も各府縣で生産され、地域差は比較的すくないが、それでも敦賀・山口・新潟以下表記の八府縣が全生産額の四割近くを占めて居る(五十四表)。

織物その他の製造用具には綿繰・製糸・織物・釀造・製油・貫刻等の用具類が含まれるが、その中の六割は綿繰・製糸・織物即ち織維工業に關する用具であつた。これらの製造器具は各府縣で少しづゝ生産され、地域差はすくなく、僅かに京都府がその生産額稍々多額であるにすぎない。

鋸・庖丁・鉋・斧の類には外に鋏・鑿・鎚・小刀・山刀・錐等が含まれるが、これらの中では鋸及び庖丁が生産額最も多かつた。また地域的にみると、飾磨・堺以下次の七府縣が産額多く、これらのうち堺・敦賀の兩縣は庖丁の特産地他ほ概ね鋸の主産地であつた(五五表)。

〔鋸鉋斧庖丁類〕(55表)

飾磨縣	66,779圓	内，鋸生産額	39,210圓
		鉋　〃	17,414
堺　〃	45,624	(内，庖丁生産額	42,814)
京都府	31,624	(内，鋸生産額	25,393)
大阪〃	31,008	(内，鋸生産額	13,539)
新潟縣	20,086	内，鋸生産額	5,756
		庖丁　〃	5,157
筑摩〃	18,463	(内，鋸生産額	16,053)
敦賀〃	17,494	(内，庖丁〃	14,231)
計	231,078 (全生産額に對する比率65%)		

車輛類には人力車・荷車・小車・輕運車等があるが、人力車及び荷車が支配的であつた(五六表)。

〔車輛類〕(56表)

人力車	14,205台	249,411圓
荷　車	6,706	36,184
其　他	618	13,768
計	21,529	299,363

これらの車輛類は東京・大阪・愛知の三府縣が主産地で、この三府縣で全生産額の五割を占めていた(五七表)。

〔車輛類〕(57表)

東京府	76,638圓
大阪〃	53,282
愛知〃	21,208
計	151,128 (全生産額に對する比率50%)

鍋釜類も各府縣で生産されて居るが、次の諸縣が比較的重要な産地であつた(五八表)。

〔鍋釜類〕(58表)

大阪府	72,310圓
大分縣	45,954
山口〃	41,706
三重〃	29,233
福岡〃	27,750
新潟〃	24,413
埼玉〃	21,402
栃木〃	21,251
計	284,019 (全生産額に對する比率50%)

肥料類　肥料の生産額は合計三百五萬圓余に及ぶが、その內譯を算出してみると五十九表の如くである。

菜種油が重要な生産物であつたので、油粕も亦重要な肥料であつた。各府縣で生産されて居るが、主要生産地は大阪府以下次の五府縣であつた(六十表)。

人糞尿が價格に見積られているのは京都・神奈川・埼玉・熊谷の四府縣であるが、壓倒的なのは京都府で、他は一部分が貨幣化されていたにすぎない(六十一表)。

魚粕及び干鰯の內譯は「物産表」によれば魚粕二七四、〇七〇圓、干鰯二一〇、八八四圓である。しかし「物産表」には北海道の物産が全然欠除しておるので、魚粕の中には鯡粕が全然入つていない。しかるに北海道の鯡粕生産高は明治七年現在において二九九、二六七石、一、五二〇、三六五圓に達する(開拓使事業報告第三編)。また、干鰯については「物産表」は肥料の部の外に魚の部にこれを記した縣もある。魚類の部に記された干鰯の生産高をみると、一二

〔肥料類〕(59表)

油粕	882,753圓
人糞尿	833,256
魚粕及干鰯	484,954
其他	846,429
計	3,057,391

〔油粕〕(60表)

大阪府	406,423玉	116,090圓
愛知縣	907,475貫	81,847
三重〃	667,007束	76,613
京都府	170,960玉	65,772
奈良縣	14,694駄	55,839
計		396,161 (全生産額に對する比率45%)

〔糞尿〕(61表)

京都府	糞	1,718,247荷	107,390圓
	尿	14,318,725〃	644,342
埼玉縣	人尿	18,590,260貫	73,328
神奈川〃	下肥	45,250荷	5,665
熊谷〃	人糞	27,313荷	2,531
計			833,256

〔魚粕・干鰯〕(62表)

北海道	鯡粕	299,267石	1,520,365圓
新治縣	干鰯	1,651,395貫	98,015
	鰯粕	724,060〃	121,144
千葉〃	干鰯	1,161,528〃	95,185
	鰯粕	280,089〃	28,657
愛知〃	鰯粕	131,200〃	34,004
青森〃	鰯粕	839,080〃	32,685
愛媛〃	干鰯	212,629〃	36,027
福岡〃	干鰯	53,950俵	42,680
計			2,008,762 (全生産額に對する比率94%)

九、六四九圓であるので、干鰯の全生産高は三四〇、五三三圓となる。從つて、これらをすべて合すると、魚粕及干鰯の生産高は二、一三四、九六八圓となり、最も重要な購入肥料であつたことがわかる。その主要生産地は北海道を筆頭に新治・千葉・福岡・愛媛・愛知・青森の諸縣で、この一道六縣で全生産額の九割四分を占めて居る(六十二表)。

右以外にも肥料の種類はかなり多かつた。その主なものをあげると、糠・酒粕・燒酎粕・醬油粕・棉實油粕・味淋粕豆腐粕・飴粕・酢粕・干粕・魚尿糞・牛馬糞・蠶屎・灰・藻・獸骨・魚骨等で、各府縣で夫々若干宛生産されていた。

(五)

最後に原始生産物。前記のように、原始生産物の價額は總計三千三百萬圓余に達し、總生産物價額の約九%を占める。尤も、この中畜産物價額七百四十萬圓余は明治七年の現在金高で、その年の産額ではない。從つて、總計額は右記よりも稍々少額と思われるが、大體の見當はつくであろう。その内譯をみると六十三表の如くである。

〔原始生産物〕(63表)

林産物	木材類	2,362,085圓	14,565,405圓
	薪類	6,041,696	
	炭類	2,272,728	
	皮藥類	3,092,482	
	竹類	621,531	
	其他植物類	174,683	
水産物	魚介類	6,984,375	7,276,345
	藻類	291,970	
鑛産物	金・銀・銅鐵類	2,242,695	3,808,964
	玉石鑛土類	1,566,269	
畜産物	牛類	2,778,446	7,478,000
	馬類	2,688,721	
	其他禽獸類	1,633,528	
	皮革類	368,434	
	角爪類	8,871	
計			33,128,714

林産物

木材類　木材類には各種の丸太・角材・板類が含まれる。言うまでもなく、各府縣ともこれを生産して居るが、熊谷・新潟・水澤以下次の諸府縣が主産地で、この十七府縣で全生産額の六三%を占めていた(六十四表)。

薪類　薪類も各府縣で産出され、地域差は比較的すくない。産額十萬圓以上の地方は六十三萬圓の山口縣を筆頭に

〔木材類〕(64表)

熊谷	縣	145,792圓
新潟	〃	134,206
水澤	〃	129,074
愛知	〃	124,719
奈良	〃	109,074
滋賀	〃	107,789
新川	〃	104,385
栃木	〃	103,189
岐阜	〃	76,072
度會	〃	74,835
石川	〃	68,427
高知	〃	55,281
三重	〃	54,360
名東	〃	51,009
和歌山	〃	50,560
濱松	〃	50,443
京都	府	50,197
計		1,489,412 (全生産額に對する比率63%)

數量を示すことは困難であるが、その價額は前記の如く二百二十七萬圓に及ぶ。やはり各府縣で産出されて居るが、その中五萬圓以上の産地は京都府以下次の諸府縣で、この十一府縣で全生産額の六割五分を出していた(六十五表)。

皮葉類 皮葉類の中には桑葉・楮の外藁・萱・葭・藺・杉皮・檜皮等が含まれるが、その内譯を算出してみると六十六表の如くである。

〔炭類〕(65表)

京都	府	681,648圓
敦賀	縣	192,005
廣島	〃	131,744
石川	〃	94,504
足柄	〃	60,299
熊谷	〃	59,638
新潟	〃	53,879
千葉	〃	53,202
高知	〃	51,716
山口	〃	51,188
島根	〃	50,941
計		1,480,764 (全生産額に對する比率65%)

〔皮葉類〕(66表)

桑葉	1,794,028圓
楮	628,091
其他	670,363
計	3,092,482

桑葉の主産地は熊谷・栃木・山梨・筑摩・長野・福島等の主要養蠶地であつて、この六縣の産額百三十一萬圓余に及び、全生産額の七割三分を占めて居る。

楮の生産地も高知・愛媛・濱田・敦賀・水澤・岐阜・靜岡・熊谷等の主要製紙地又はその近在であつて、この八縣の産額四十萬圓に及び、全生産額の六割四分を占めて居る。山口縣も重要な楮生産地であつたと考えられるが計數の報告が欠除して居る。

京都・長崎・新潟・埼玉・熊谷・栃木・奈良・三重・度會・岐阜・長野・水澤・石川・豐岡・島根・廣島・名東・愛媛・高知・白川・宮崎の諸縣で、この二十二府縣で全生産額の七割を占めて居る。

炭類 炭類も數量單位が一定せぬので、生産

水産物

魚介類 魚介類の産額は「物産表」によると前記の如く六百九十八萬圓余であるが、これには北海道の産額が全然入

つていない。しかるに北海道の明治七年における魚介類の産額は二百八十萬圓を超えていたのであるから（開拓使事業報告第三編）、これを考慮に入れると、魚介類の總額は一千萬圓近くになる。

〔魚介類〕（67表）

鰯	955,581圓
鯛	420,022
鰹	326,571
鮪	211,840
鮭	175,915
鰈	114,480
鮭	180,406
鰻	141,360
烏賊	285,950
其他	4,172,250
計	6,984,375

魚介類の種類は言うまでもなく極めて多様であつた。夫々の漁獲數量は單位が一定せぬので示すことができないが、漁獲高十萬圓以上に及ぶ主なものを「物産表」から整理してみると六十七表の如くである。

右には直接肥料として製造された干鰯及び鰯粕の價格が含まれていないが、これを考慮すると鰯の漁獲高は一、四四〇、五三五圓となる。また、右表には前記のように北海道の漁獲高が含まれないが、同道の鰊漁獲高は明治七年、二、四六九、二一一圓（鮫粕・身欠・胴鰊・鰊鰯等を含む）で、鰊が當時わが國最大の漁獲物であつたことがわかる（開拓使事業報告第三編）。また、明治七年北海道の鮭漁獲高は二五九、二三五圓であるので（同上書）、これに右表の内地漁獲高を加算すると四三九、六四一圓となり、鮭は鰯に次ぐ漁獲物となる。

鰯の主産地は知多半島近在、常陸鹿島灘、房總沿岸、伊豫沿岸、加賀沿岸等で、これらの地方をもつ上記の五縣で、全鰯漁獲高の約六割を占めていた（六十八表）。

鯛の主産地は瀬戸内海、九州筑前沿海及び日本海方面の敦賀・石川・豊岡・鳥取の諸縣であつた（六十九表）。

鰹は南は鹿兒島縣から北は宮城縣に至る太平洋沿岸で主産地で、表記の十三縣で全鰹漁獲高の九割近くを占めていた（七十表）。

鹿兒島縣も主産地であるが、同縣の漁獲高は欠除して居る。

〔鰯〕（68表）

	生鰯	干鰯	搾粕	計
千葉縣	37,873圓	95,185圓	28,657圓	161,715圓
新治〃	7,365	98,015	121,144	226,524
愛知〃	273,553	19,852	34,004	327,410
石川〃	103,979	—	—	103,979
愛媛〃	33,501	36,027	—	69,528
計				889,156
				（全漁獲額に對する比率62%）

〔鯛〕(69表)

飾磨	縣	17,389貫
岡山	〃	9,532
小田	〃	33,433
廣島	〃	12,435
山口	〃	50,400
名東	〃	28,431
愛媛	〃	40,921
福岡	〃	28,416
敦賀	〃	16,335
石川	〃	15,098
豐岡	〃	16,171
鳥取	〃	17,948
神奈川	〃	15,851
計		302,360 (全漁獲高に對する比率72%)

〔鰹〕(70表)

宮崎	縣	16,784貫
高知	〃	33,337
名東	〃	42,281
和歌山	〃	38,800
度會	〃	44,050
濱松	〃	20,435
靜岡	〃	10,039
足柄	〃	23,059
千葉	〃	13,125
新治	〃	9,600
茨城	〃	15,036
磐前	〃	9,460
宮城	〃	11,877
計		287,883 (全漁獲高に對する比率88%)

〔鮪〕(71表)

長崎	縣	77,379貫
山口	〃	21,025
千葉	〃	19,959
宮城及水澤	縣	33,688
計		152,051 (全漁獲高に對する比率72%)

鮪は長崎縣五島、山口縣豐浦郡、房總沿海及び陸前陸中沿海が主産地で、これらをもつ表記の五縣で全體の七割を漁獲していた(七十一表)。

鯖は各地で漁獲されて居るが、石川縣以南の日本海沿岸が重要な産地で、表記の七縣で全鯖漁獲高の七割を占めていた(七十二表)。

鰈も各地で漁獲されたが、宮城縣並に日本海沿岸の石川・新川・敦賀・豐岡の諸縣が主産地であつた(七十三表)。

鮭は言うまでもなく北海道が第一の産地で、同道の鮭漁獲高は前記の如く二十六萬圓弱、全體の約六割を占めていた。本州でも當時は千葉・飾磨・島根の諸縣までこれを漁獲して居るが、中心地は新潟・水澤・岩手・酒田の諸縣であ

〔鯖〕(72表)

石川	縣	21,967貫
敦賀	〃	17,076
豐岡	〃	11,509
鳥取	〃	6,344
島根	〃	6,575
濱田	〃	7,096
山口	〃	54,000
計		124,567 (全漁獲高に對する比率71%)

〔鰈〕(73表)

宮城	縣	12,916貫
石川	〃	15,546
新川	〃	11,169
敦賀	〃	27,259
豐岡	〃	21,158
計		88,048 (全漁獲高に對する比率77%)

〔鮭〕(74表)

岩手	縣	58,674貫
新潟	〃	46,305
水澤	〃	17,317
酒田	〃	13,181
計		135,477 (全漁獲高に對する比率31%)

〔鰻〕(75表)

東京	府	17,027貫
千葉	縣	13,283
新治	〃	13,638
愛知	〃	11,842
濱松	〃	20,435
岡山	〃	10,319
計		86,544 (全漁獲高に對する比率61%)

つた(七十四表)。

鰻は各地で漁獲されたが、東京・千葉・新治・愛知・濱松・岡山の諸縣が比較的漁獲高多く、この六縣で全體の六割を占めて居る(七十五表)。

烏賊(鯣を含む)も各地で漁獲されて居るが、佐渡(相川縣)及び長崎縣五島が最も重要な産地、これに烏取・大分・新川・水澤・小倉・石川の諸縣が次いでいた(七十五表)。

〔烏賊〕(75表)

相川縣		106,712圓
長崎	〃	39,660
鳥取	〃	20,084
大分	〃	17,282
新川	〃	16,712
水澤	〃	10,514
小倉	〃	10,264
石川	〃	10,234
計		(全漁獲高に對する比率81%)

〔藻類〕(76表)

昆布	220,083圓
海苔	101,451
天草	39,015
和布	36,647
布海苔	30,762
荒和布	15,604
其他	63,769
計	507,331

〔海苔〕(77表)

東京府	40,476圓
廣島縣	32,034
計	72,510 (全海苔産額の71%)

藻類　藻類の産額は二九一、九七〇圓であるが、この中にはやはり北海道の産額が入つていない。明治七年における北海道の藻類産額は二一五、三六一圓であるから(開拓使事業報告第三編)、藻類産額は全體で五〇七、三三一圓となる。その内譯をみると七十六表の如くである。

昆布は大部分が北海道で産出された。海苔は表記の如く東京及び廣島縣の産額が支配的であつた(七十七表)。

鑛産物

金銀銅鐵類　やはり數量單位が一定せぬで、生産數量を示すことは困難であるが、生産額につきその内譯を算出してみると七十八表の如くである。

まず鐵であるが、鐵は當時は未だ殆んど砂鐵から製錬されていた。從つて主要生産地は山陰山陽方面の鳥取・島根・濱田・廣島・北條・小田の諸縣で、この六縣の生産額一、〇九一、一四四圓に及び、全生産額の九割一分を占めていた。これに次ぐのは宮城・磐前・岩手等の東北地方であるが、この地方の生産額は未だ全生産額の五分程度にすぎな

〔金銀銅鐵類〕(78表)

金		13,936圓
銀		79,545
銅		808,640
鐵		1,198,272
眞鍮板		66,579
鉛		8,454
其他		67,269
計		2,242,695

〔鐵〕(79表)

銑鐵	2,397,795貫
錬鐵	2,666,187
鋼鐵	145,154
計	5,208,136

かつた。

鐵の種類にはやはり銑鐵・錬鐵・鋼鐵の三種があつたが、鋼の生産は未だ極めて僅かで、大部分が銑鐵及び錬鐵につくられていた。前記の山陰山陽地方六縣についてみると七十九表の如くである。

銅の産額は總計五、三八三、二六八斤、八〇八、六四〇圓以上に及んで居るが、主要産地は院内・阿仁・小坂等の鑛山をもつ秋田縣及び別子銅山の所在地たる愛媛縣で、外に大阪・奈良・筑摩・若松・島根・岡山の諸縣が産額多く、この八府縣で全體の七、八割を占めていた(八十表)。

〔銅〕(80表)

秋田縣	荒銅	728,000斤	104,602圓
	鑄銅	387,000	?
	丁銅	302,000	?
	銅鑛	156,069	?
愛媛縣	丁銅	818,265	170,677
大坂府	丁銅	281,700	64,791
奈良縣	鑛銅	617,207	114,925
筑摩縣	銅	400,225	66,518
若松縣	荒銅	121,619	21,669
	丁銅	15,627	3,456
	筆銅	7,450	1,622
島根縣	荒銅	231,225	39,004
岡山縣	銅	221,800	?
計		4,288,187 (全生産高に對する比率80%)	587,264 (全生産額に對する比率72%)

金の生産額は「物産表」によれば一二、九三七圓にすぎぬが、農商務省鑛山部の調査によると明治七年の金生産高二三貫六六〇匁、その價額六四、一五二圓であつた(第一統計年鑑)。その主要産地は佐渡・鹿兒島縣の山ケ野・芹ケ野・秋田縣の阿仁・院内・兵庫縣の生野・倉床等であつた。

銀の生産額も「物産表」の數字は稍々すくないようで、農商務省鑛山部の調査によれば、明治七年の銀産額六六四貫四五〇匁、一〇八、二〇四圓である。やはり院内・阿仁・小坂等の鑛山をもつ秋田縣が最大の生産地で、その外佐渡・生野(兵庫縣)・半田(福島縣)の産額も多かつた。

玉石鑛土類 まずその内譯をみると八十一表の如くである。石灰は各府縣で生産されて居るが、主要産地は長崎縣を筆頭

〔玉石鑛土類〕（81表）

石灰	811,661圓
石炭	468,229
玉石其他	286,379
計	1,566,269

に、山口・廣島・高知・敦賀・新川・三重・栃木の諸縣で、この八縣で全生産額の八五%を生産して居る。

石炭は福岡・佐賀・山口の三縣が主産地で、この三縣で全生産額の九七%を占めていた。なお、第一統計年鑑によれば、明治七年における石炭生産高は官行鑛山（三池・高島）が三五、九七一、〇〇二貫、民行鑛山二四、六二二、五六七貫、合計六〇、五九三、五六九貫であつた。

畜産物

前にも一言したように、「物産表」に記載された牛馬及び其他の家畜類の數字はその年の産出高でなく、現在高であるので、他と比較することは困難と思うが、一應現在高で分析することにした。

牛類　牛類の明治七年現在の頭數は四二八、六一八頭となるが、その中一萬頭以上を有する地方は京都・長崎・滋賀・岩手・豐岡・鳥取・濱田・北條・小田・廣島・愛媛・高知・大分・佐賀・宮崎・鹿兒島の諸縣で、この十六府縣で全頭數の八割五分を占めていた。なお「第一統計年鑑」によると、牛の頭數は明治十年一、〇七五、八一四頭、同十一年一、〇八〇、四一四頭、同十二年一、〇四四、九一〇頭であつて、これらに比すると「物産表」による明治七年の頭數はかなりすくなく、或は不完全な數字であるかも知れぬ。參考までに明治十二年において一萬頭以上を有する地方をみると、

大和・攝津・伊勢・近江・陸中・陸奥・丹波・但馬・因幡・伯耆・出雲・石見・播磨・美作・備前・備中・備後・安藝・周防・長門・紀伊・淡路・阿波・讃岐・伊豫・土佐・筑前・豐前・豐後・肥前・肥後・大隅・薩摩

の諸國で、この三十三ヶ國で、全體の九割近くを占めていた。

馬類　「物産表」によれば明治七年現在の馬の頭數は五二六、三七七頭となる。その中やはり一萬頭以上をもつ地方

をみると、長崎・岐阜・岩手・青森・秋田・愛媛・高知・大分・白川・宮崎・鹿兒島の諸縣で、この十一縣で全體の八割七分を占めていた。「第一統計年鑑」によると、馬の頭數は明治十年一、二四六、七八頭、同十一年一、五四〇、五八八頭、同十二年一、四五四、八二三頭であり、これに比すると明治七年の「物産表」に基く數字は少きに失する。なお、明治十二年において一萬頭以上を所有した地方は、

三河・甲斐・武藏・上總・常陸・美濃・信濃・上野・下野・磐城・岩代・陸前・陸中・陸奥・羽前・羽後・能登・越中・越後・周防・長門・阿波・伊豫・土佐・筑前・筑後・豐前・豐後・肥前・肥後・日向・大隅・薩摩

の三十四ヶ國で、これらの地方で全體の九割を占めていた。

其他禽獸類　この中には鶏・豚・兎その他各種の禽獸類と鶏卵とが含まれるが、そのうち主要なのは鶏及び鶏卵で、この兩者で其他禽獸類一、六三三、五二八圓の八割を占めていた。

鶏の總數四、四〇四、四一二羽、このうち十萬羽以上を有する地方は、長崎・新潟・埼玉・千葉・新治・茨城・熊谷・栃木・岐阜・秋田・廣島・山口・名東・高知・大分・宮崎の諸縣で、この十六縣で全體の八割を占めていた。

（六）

以上で各生産物の分析を一應終えたので、最後に、各地域において、農村の商品生産化がどの程度進展していたかについて若干考察してみたい。この問題を取扱うに當つて、私は重要な商業的農作物及び農村工業品として、

繭・生糸・綿・綿糸・麻・織物・藍・菜種・油・蠟・煙草・茶・酒・醬油・砂糖・紙・疊莚類

の十七品目を選定し、その合計生産額を各地區及び各府縣毎に算出した。細かく考えれば問題もあろうが、大局からみて右の十七品目の生産額が多額な地區又は府縣ほど農村の商品生産が進展していたとみて大過ないかと思う。かゝる考慮の下に作成されたのが八十二表である。

(82表)

山陰區

(17品目合計生産額)

豐岡縣	1,361,122圓
鳥取〃	650,054
島根〃	612,151
濱田〃	528,262
北條〃	474,472
計	3,626,061
一縣平均	725,212

四國區

(17品目合計生産額)

名東縣	4,095,017圓
愛媛〃	1,755,167
高知〃	1,080,375
計	6,930,559
一縣平均	2,310,186

九州區

(17品目合計生産額)

福岡縣	754,785圓
三潴〃	1,050,214
小倉〃	396,624
大分〃	1,066,523
佐賀〃	587,150
長崎〃	801,335
白川〃	1,361,005
宮崎〃	809,443
計	6,827,079
一縣平均	853,385

備考　鹿兒島縣を欠く

東山區

(17品目合計生産額)

山梨縣	1,916,709圓
筑摩〃	2,098,543
長野〃	1,674,845
岐阜〃	1,972,589
計	7,662,674
一縣平均	1,915,671

北陸區

(17品目合計生産額)

新潟縣	2,879,808圓
敦賀〃	1,788,331
石川〃	1,300,647
新川〃	1,676,325
計	7,645,111
一縣平均	1,911,277

備考　相川縣を削除する

近畿區

(17品目合計生産額)

堺縣	1,835,058圓
大阪府	2,593,528
兵庫縣	1,798,981
奈良〃	1,953,514
京都府	5,250,087
飾磨縣	1,794,166
和歌山〃	1,245,724
計	16,471,058
一縣平均	2,353,000

備考　滋賀縣を除く

山陽區

(17品目合計生産額)

岡山縣	758,639圓
小田〃	1,044,971
廣島〃	1,842,174
山口〃	3,532,603
計	7,178,387
一縣平均	1,794,597

關東區

(17品目合計生産額)

東京府	425,734圓
神奈川縣	1,016,710
千葉〃	1,598,975
新治〃	1,294,391
茨城〃	715,863
埼玉〃	1,862,408
熊谷〃	5,531,646
栃木〃	4,386,739
計	16,832,466
一縣平均	2,104,058

東北區

(17品目合計生産額)

宮城縣	657,052圓
岩手〃	433,934
福島〃	1,045,610
水澤〃	673,136
磐前〃	945,532
若松〃	578,288
青森〃	432,654
山形〃	438,832
酒田〃	145,756
置賜〃	560,091
秋田〃	853,401
計	6,764,286
一縣平均	614,935

東海區

(17品目合計生産額)

足柄縣	678,935圓
濱松〃	1,013,540
靜岡〃	886,634
愛知〃	5,195,055
三重〃	1,232,801
度會〃	749,400
計	9,756,365
一縣平均	1,626,061

即ち、地區を基準にみると、近畿・四國・關東・東山・北陸・山陽・東海・九州・山陰・東北の順序となる。近畿及び四國地方と山陰及び東北地方とを比較するならば、兩者の間に農村の商品生産化の程度について著しい隔たりのあつたことを知ることができよう。

（83表）

熊谷縣	繭	1,245,199圓
	生糸	1,343,053
	織物	925,136
		3,513,388
		（17品合計生産額に對する比率64%）
栃木〃	織物	2,439,732
		（56%）
愛知〃	綿類	1,210,065
	酒	1,681,179
	織物	832,162
		3,723,406
		（72%）
筑摩〃	繭	308,272
	生糸	430,346
	織物	501,167
		1,239,785
		（60%）
新潟〃	織物	988,450
	酒	630,988
		1,619,438
		（56%）
京都府	綿類	1,255,418
	織物	2,266,358
		3,521,776
		（67%）
大阪府	綿類	575,002
	綿糸	97,686
	織物	907,108
		1,579,796
		（60%）
山口縣	紙	1,385,890
	菜種及種油	680,000
		2,065,890
		（58%）
名東縣	藍	1,208,459圓
	砂糖	720,482
	酒	615,202
		2,544,143
		（62%）
奈良〃	綿類	280,438
	綿糸	119,624
	織物	697,424
		1,097,486
		（56%）
山梨〃	繭	779,200
	生糸	315,790
		1,094,996
		（57%）
岐阜〃	繭	92,208
	生糸	170,163
	紙	203,323
	酒	378,044
	織物	502,513
		1,346,251
		（68%）

次に府縣を基準にみると、關東區の熊谷・栃木、東海區の愛知、東山區の筑摩・山梨・岐阜、北陸區の新潟、近畿區の京都・大阪・奈良、山陽區の山口、四國區の名東の諸府縣が農村商品化の最も進展した地方とみられる。これら諸府縣の特産品の内容についてみると上掲八十三表の如くである。

近世日本の經濟を分析する場合、以上の如き

地域性は十分に考慮されなくてはならない。